

今回の Topics は、パラグアイ物流概要についてです。パラグアイは近年、低い税率、安価な労働力等を背景に日本企業を含めた外国企業の進出も増えつつあり、2013年は13.6%の高い経済成長を記録しました。ぜひご一読下さい。

## I. 概要

パラグアイは南米の中心に位置する内陸国です。首都はアスンシオンで、国土は約40万平方Kmと日本の約1.1倍、そのほとんどが平坦な土地です。また、人口は約669万人と日本人の約20分の1となっています。なお、日系人約5,800人が居住していることから、親日国家と言われています。

## II. 貿易概要

パラグアイの主要貿易品目及び主要相手国は以下の通りです。特に大豆生産量は世界第6位、輸出量では世界第4位となっており、その中心的役割を担っているのは日系人です。

### (1) 主要品目

- ・輸出 大豆、牛肉、植物性油、小麦、穀類、電力
- ・輸入 機械機器、電子機器、原油・燃料、自動車

### (2) 主要貿易相手国

- ・輸出 ブラジル、ロシア、アルゼンチン、チリ、ドイツ
- ・輸入 中国、ブラジル、アルゼンチン、米国、日本

## III. 物流について

### (1) 概要

パラグアイは、ブラジル、ボリビア、アルゼンチンに囲まれている内陸国で、貨物は陸路もしくは河川を利用して運ばれます。

大型貨物船は水位の問題で河川には入れないため、貨物は周辺国の主要港で卸され、積み替えられた後に陸路、もしくは河川を利用して輸送されます。河川利用の際は、主にアルゼンチン、ウルグアイで河川用のバージに積み替えられ、パラグアイ川を経由し運ばれます。なお、乾季には川の水位が足りず途中港で卸され、その後陸路で運ばれることもあります。

### (2) アスンシオン港での荷役について

アスンシオン港はパラグアイ川にある港であり、パラグアイの主要港となっています。

コンテナの荷卸は岸壁クレーンを使用しており、日本の港でよく見られる大型ガントリークレーンでの荷卸しとは方法が異なります。具体的には、船上のコンテナの四隅を固定し、岸壁クレーンで吊り上げて岸壁に卸します(下写真1)。岸壁ではトラックが待機しており、リーチスタッカー(大型コンテナを持ち上げ移送する特殊車両)を使用し、岸壁に置かれたコンテナを持ち上げトラックに積載します(下写真2)。岸壁クレーンはワイヤーで吊り下げる操作のため、不安定な状況での荷卸しとなり、時間もかかります。

このようにパラグアイ向け物流は積み替えの回数も多く、かつ不安定な荷卸しをせざるを得ない状況のため、コンテナ内の荷動きや衝撃による破損などに特に注意を払う必要があります。

パラグアイ川に浮かぶバージ	岸壁クレーン(写真1)	リーチスタッカー(写真2)
		



また、アスンシオン港では自動車の取扱いもあり、自動車もコンテナと同じくバージで輸送します。動力を1船でまかなうため、自動車とコンテナを積載した2船のバージが曳航されるなど、他国ではなかなか見ることのない物流実態が垣間見えます。

バージからの自動車の荷卸しも、コンテナと同様にクレーンが使用されます。船上のスペースが出来るまではクレーンのワイヤーで直に自動車を吊り上げ、数台を岸壁に卸します。数台分のスペースが空いたところで、ゴンドラ状のラックを投入し、自走でラックに搬入します。その後、ラック上部をワイヤーで吊り、岸壁に移送します。ワイヤーで直接吊り上げる方法だけではダメージ発生リスクが高くなるため、ラックを利用することでダメージ削減を図るよう工夫しています。

なお、最近では自走による積み込み・荷卸し可能な Ro-Ro 船も導入されていますが、まだ運航は数船程度で、かつ、全ての港が受け入れ可能なインフラを整備しているわけではありません。

自動車の吊り上げ作業風景



自動車搬送用のラック



### Ⅲ. 物流面の課題と今後の物流計画

パラグアイの物流面での課題はインフラで、港への一般道の整備状況も脆弱です。未舗装の赤土の道路も多く見られ、雨が降ると道路に水が溢れることもしばしばです。

インフラの問題から洪水も多く、直近では今年6月に数日間にわたって続いた豪雨によりパラグアイ川とパラグアイの南を流れるパラナ川が氾濫、大規模な避難が必要となりました。この点、今年6月のカルテス・パラグアイ大統領来日時に、大統領は2017年までにインフラ事業に160億ドル(約1兆6000億円)を投じ、空港、道路、河川港などの建設を加速したいと発表しており、このインフラ整備の計画が実現すれば、南米の中心という立地を考えるとビジネスチャンスも多く、今後注目される地域となる可能性があります。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら弊社営業担当までお寄せください  
ますようお願い申し上げます。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

[http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine\\_site/index2.html](http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html)